

山梨県芸術文化協会情報誌

# 藝文 やまなし

Vol.44

令和3年3月号

CONTENTS

- 令和2年度を振り返って
- イベント紹介
- 芸術文化講習会 開催部門の声
- コロナ下における芸文協
- 賛助会員の紹介

—— 事務局 ——

山梨県 観光文化部  
文化振興・文化財課  
〒400-8501 甲府市丸の内1-6-1  
TEL 055-223-1797  
FAX 055-223-1793  
<http://yamanashi-geibun.net>

# 令和2年度を振り返って



山梨県芸術文化協会会長  
**野口 英一**

日ごとに木々や花が芽吹き始める様子に、春の到来を嬉しく感じております。

令和2年度は、20回目の節目となるやまなし県民文化祭が延期になったことをはじめ、新型コロナウイルスの影響が多大な1年でありました。しかし、このような時だからこそ、日々の生活に潤いと安らぎをもたらす文化芸術が持つ癒しの力や、多様な価値を生み出す可能性に改めて目を向ける必要があるのではないかでしょうか。

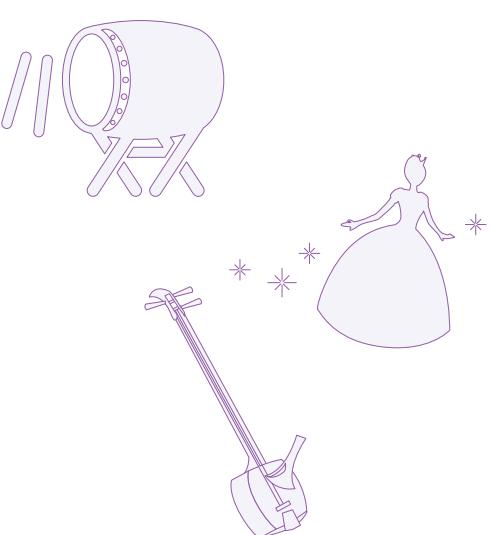
芸術文化協会においては、文化芸術の担い手の育成のため、芸術劇場と指導者派遣事業という2つの大きな事業を継続して実施して参りました。

これらの事業は児童生徒を中心とするこれからの活動を担う世代を対象としているため、学校等において新型コロナウイルス感染拡大防止のための休校などにより授業の時間を確保することさえ難しい中では、事業を中止とせざるを得ませんでした。このことは非常に残念でなりませんが、今後も継続して文化芸術の芽を育てていくため、会員の皆様方と十分な準備をしながら一日も早い事業再開を願いたいと思います。

芸術文化講習会事業については、当初予定しておりました茶道、書道の両部門におきましては新型コロナウイルスの状況を考慮し実施することが叶いませんでしたが、合唱、朗読の両部門におきましては、更なる芸術文化活動の活性化を目指し、十分な感染症対策を取った上で実施することとし、充実した内容の講習会により指導者の指導力向上につながったと聞き、一筋の光を感じることができたところでございます。このような状況下であるからこそ、本協会員の皆様方のこのような活動のひとつひとつが本県の更なる文化芸術振興の礎になり、県民の皆様の活力になりますことを切に願っております。

今の状況を見ておりますと、この困難が一気に晴れ渡ることは難しいと考えられ、「新しい生活様式」のもと、文化芸術に関しても発したり受けたりする手法は、大きく変化をしてきております。会員の皆様の尽力により、その変化にも文化芸術で培われたしなやかさで時代の要請に応えながら対応し、活動の根底に流れる大事な部分は継続され、文化芸術が山梨県各地の振興の土台部分を担っていくことを確信しております。

会員の皆様におかれましては、今後とも本協会の事業に対しましてご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、会員の皆様方の今後ますますのご健勝とご活躍をお祈りいたしまして、結びとさせていただきます。



## イベント紹介

会員の活動をホームページで紹介しています。詳しくはこちら



# 芸術文化講習会 開催部門の声

山梨県芸術文化協会合唱部門 部門長 渡辺 公男

令和2年度は皆様ご承知のとおり、新型コロナウイルスの影響によりどの部門も思うような活動ができなかったことと思います。私ども合唱部門でも当初予定されていた様々な行事の中止を余儀なくされ、練習もままならない団体が数多くあるという厳しい状況でした。そのような中、何とか合唱の灯を絶やさぬようにと感染対策を十分取りながら開催したのが、芸術文化講習会「～コロナに負けるな～合唱のつどい2020 今日から明日へ」でした。

令和2年8月29日(土)30日(日)は、当初やまなし県民文化祭合唱フェスティバルの予定でしたが、感染拡大防止のため、やまなし県民文化祭行事は中止となりました。それまで、6月の合唱祭も中止としていたため、最終学年で卒業していく生徒の皆さんに発表の場を設けるため、また、これまで講習会も開催できなかった代替措置とするため、8月30日(日)に東京エレクトロン垂崎文化ホールでこのイベントを開催しました。

私たちの予想を上回る、中学、高校、一般の計19団体



が参加し、日ごろの練習の成果を披露しました。感染予防対策としてステージ上の並びも一定の距離を取り、観客は保護者や家族のみで間隔を空けて座っていただきました。演奏した団体は2名の講師からの紙面での講評を受け、充実した1日を終えることができました。

今回は講師からの直接の指導を受けることはできませんでしたが、それぞれが講師からいただいたアドバイスは大いに次のステップにつながるものだったと思われます。一刻も早く新型コロナウイルスが収束し、以前のように思う存分声高らかに歌える日が来るよう、願ってやみません。

山梨県芸術文化協会朗読部門 部門長 永田 京子

## 「書いて伝えるということ」

日 時／令和2年11月16日(月)13:30  
会 場／山梨県立図書館 多目的ホール  
講 師／山梨日日新聞元論説委員長 向山 文人  
参加者／25人

この芸術文化講習会は朗読文化の向上と指導者の育成を目的に開催するものです。コロナ禍でイベントの自粛が続いているが、感染予防のガイドラインを遵守して実施しました。

講演では40年にわたり新聞に携わった経験をもとに、政治、社会、文化、スポーツなど、いま話題になっていることを解説していただきました。

山梨日日新聞は現存する地方紙では最も古く、創刊の序文には新聞発行の目的や意義が書かれています。その先見性と使命感には目を見張るものがあります。

新聞の文章は、事実を報じる一般記事、記者の思いや視点、・論点を伝えるコラムや論説記事、おおむね2種類に分けられます。



紙面を参照して具体的な留意点を学んだことは、朗読で必要な読解力につながります。この講習会に大勢の会員が参加できなかったことが残念です。

後半は雰囲気をかえて講師の弾き語りでリラックス。ギターと歌声に心身が癒されるひとときになりました。最後に新聞連載小説「うずしお高校淨瑠璃部」を各グループの委員が読み継ぎ、研修の成果を発表して講習会を終了しました。

朗読の愛好者は県内に広がっています。裾野の拡大に続く課題は表現力の向上です。声を出して文字を上手に読む音読から、作品を読み解いて内容を語って伝えるステージ朗読が芸術となるよう研修を続けてまいります。

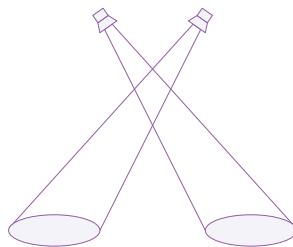
# コロナ下における芸文協



山梨県芸術文化協会  
副会長  
鶴田 一杏

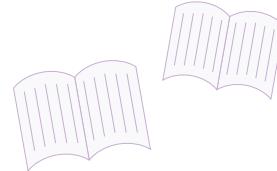
昨年は新型コロウイルスの感染拡大により、県内の地域にも予測もつかないような影響が多岐に及び、芸術文化の発表、展示等の多くが中止又は延期となりました。このような状況下において、多くの社会活動や経済の振興に陰陽のダメージが想像を超えた応えをもたらしました。国、県はもとより地域社会において、仮に芸術文化が消えてしまったならば、国や県の存在も無きに等しい事に繋がってしまいます。

このコロナウイルスは日本のみならず、全世界において



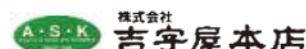
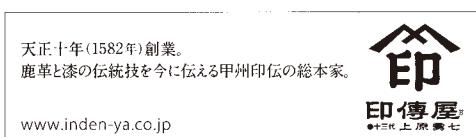
感染が拡大しており、海外におけるその規模は我が国の比ではありません。まさに地球社会全域の感染です。

迎えた令和3年は丑(牛)年です。牛は古くから、酪農や農業等、生活に欠かせない動物であり、日本では牛にまつわる行事や信仰が広く見られます。おっとりとしながらも勤勉に働く姿が誠実さを象徴し、縁起の良い動物です。薬師如来の化身とされる牛頭天王をして病魔退散を祈願し、文化芸術、社会環境、経済等の更なる飛躍の年になるよう願いたいものです。



## 賛助会員の紹介

当協会の趣旨に賛同してくださりご協力をいただいている賛助会員の皆様です。令和2年9月1日現在



(一社)山梨県労働者福祉協会

公益財団法人 やまなし産業支援機構



チラシ パンフレット 作品集 記念誌 あらゆる印刷物に対応

株式会社ヨネヤ  
〒400-0031 甲府市丸の内1-14-6 TEL 055-235-4311 FAX 055-235-4313  
ヨネヤ 印刷 検索 <http://www.yoneya.co.jp/>

